

課長	課長補佐	係長	記録

【所属名:文化振興課】
【会議名:第1回糸魚川市文化財保護審議会】

会議録

- 開示
一部開示
不開示 (理由:条例第 条第 号 該当)
時限不開示 (開示: 年 月 日)

作成日 令和6年5月21日

日	令和6年5月9日	時間	13:30 ~ 15:10	場所	市役所 203 会議室
件名	1 あいさつ 2 報告 (1) 令和5年度の事業概要報告について (2) 令和5年度の文化施設来館状況について (3) 能登地震の状況報告について (4) 青海川の硬玉産地整備基本計画について (5) 令和6年度の主な事業について 3 協議 (1) 文化財の減(解除)について (2) 糸魚川市文化財保存活用地域計画の評価について 4 その他 (1) 市振駅、親不知駅の文化財登録について (2) 木地屋の里地滑りにについて				
出席者	【出席者】8人 吉田委員、井伊委員、池亀委員、小掠委員、倉又委員、佐藤委員、小林委員、渡邊委員 【欠席者】1人 吉倉委員 【事務局】6人 文化振興課 嵐口課長、榎課長補佐、渡邊係長、猪又主査、小池主任主事、大久保主事				
	傍聴者定員		-人	傍聴者数	0人

会議要旨

1 開会あいさつ(13:30) 吉田会長 2 報告 ※議事進行については吉田会長が議長となる。 (1)から(3)は経過や結果の報告のため、事務局から一括説明した。その後、項目ごとに質疑応答を行った。 (1) 令和5年度の事業概要報告について 【事務局】 ア 糸魚川市文化財保存活用地域計画は昨年7月21日に文化庁の認定を得た。地域計画の策定は、県内では新発田市とともに一番目となった。 イ 木地屋シンポジウムは現地視察も合わせ250名の参加があった。事業に協力いただいた滋賀県東近江市の市長も来られた。 ウ 相馬御風生誕140年事業について、去年は「春よ来い」の発表から100年の年でもあり、小さな企画

を数多く実施した。その効果として民間からも事業に取り組んでいただき、結果的にいつも何かしらの行事が行われている状況となり、よかったと思っている。今後につなげていきたい。

(2) 令和5年度の文化施設来館状況について

【事務局】コロナの影響以降、合計数では回復の傾向にあるが、博物館が牽引していると考えている。一方、民俗資料館系が減少傾向にある。このため4月から経営会議という名称で月1回の打ち合わせを開催している。

【委員】ゴールデンウィークの入込はどうだったか。

【事務局】フォッサマグナミュージアムは昨年と同程度の来館があった。この4月から料金改定を行い、一般の入館料は500円が700円になったが、入館者数は大きく変わらず収入額が増えている。長者ヶ原考古館は、フォッサマグナミュージアムで共通券を積極的に販売し入館者数が増えている。令和5年度は年間約1万3千人が入館しており、従前は7千人、8千人程度だったものが増加傾向にある。

【委員】高校生は無料だったと思うが、変更はあったか。

【事務局】高校生以下はどこから来られても無料だった。料金改定後は市内の方は減免により無料となり、市外の方は300円となったが、市外の方も多く来ていただいた。

(3) 能登地震の状況報告について

【事務局】市内の文化財161件のうち、市所有の文化財3件、民間所有の文化財4件が被害を受けた。

※詳細は資料別添1(部外秘)にて説明。

※質疑なし

(4) 青海川の硬玉産地整備基本計画について

【事務局】別紙資料により説明。

【委員】網羅的に様々な角度から対応するような内容だが、全て未着手、未整備なのか。それとも現在何らかの対応があつて、さらに見直しをして整備するのか。

【事務局】両方ある。まず、現存のものは例えば防犯カメラで、それを補強したいと考えている。また、転落防止柵はかなり腐食している部分があり、補強や更新をしたい。新規はトイレ、駐車場、学芸員の説明に合わせた説明看板などを考えている。

【委員】中央エリアは当面、整備を控えるとの説明があつたが、将来的に整備する予定はないのか。

【事務局】地形的にかなり厳しく、現在の技術では難しい。ただし、工事の技術が進めば、遊歩道整備など検討の余地があると思う。

【委員】エリアが分断されたままでは見学しにくい。いつかは繋げてほしい。

【委員】一般の観光客は気軽に訪れていないと思うが、研究者や大学の先生などの案内、学校の見学の時などは学芸員が案内しているとのことだが、今後もそうか。

【事務局】そう考えている。さらに今後は、公民館活動や学校の見学で、学芸員のほかにジオパークガイドも活用できたらと思っている。また、予約制でヒスイ峡と他の場所を回る案内コースをつくるなど、ソフト面の充実を試みたい。

(5) 令和6年度の主な事業について

アからエを事務局からまとめて説明後、項目ごとに質疑応答を行った。

ア 長者ヶ原考古館

ア) フォッサマグナミュージアム・長者ヶ原考古館30周年

【事務局】30周年記念として、4月21日に式典と記念講演会を実施した。長者ヶ原考古館は平成6年8

月開館であることから、8月の夏休みにイベント等を開催したい。また、昨年の御風140周年事業と同様、30周年の冠をつけて小さな行事をいくつか行っていきたい。

イ) 長者ヶ原考古館の特別展、シンポジウム

【事務局】特別展は10月から11月頃の開催で準備を進めている。内容はヒスイ資料特別展として、当市の資料の他に県内外の遺跡から出たものを借用し、大々的に展示したい。シンポジウムは、ヒスイが県石に指定されてから県内でもヒスイの調査研究が大変進んでおり、県内の研究会メンバーを招いて11月23日(土)開催を予定している。

イ 長者ヶ原遺跡公園

ア) 長者ヶ原遺跡保存活用計画の策定

【事務局】長者ヶ原遺跡は平成元年に保存管理計画を策定し、平成12年に整備が完了している。25年が経過し、施設の劣化が進行している。今年度、長者ヶ原遺跡の保存活用計画策定に向け委員会等の準備をしている。文化財保護審議会委員の方々にも出席いただく形になるかと思うので、ご協力願いたい。

イ) 堀立柱建物の解体

【事務局】堀立柱建物は昨年春に傾きを発見。原因は降雪や冬の強風ではと考えている。柱の根腐れで大変危険な状況のため囲いをしており、解体を考えている。時期は、遺跡公園の利用が落ち着く11月から12月と考えている。

【委員】建物は解体して終わりなのか。

【事務局】保存活用計画を策定したうえで整備計画を立て、国の補助金を受けて再整備できればと考えている。再整備後の建物は、VRなどの新しいテクノロジーを入れて活用したい。

ウ 糸魚川市文化財保存活用地域計画の実践

【事務局】別紙資料により説明。

【委員】資料にあるように、SNSによる情報発信セミナーの対象者は文化財所有者、その他市内の民族芸能関係者(団体・個人)限定なのか。

【事務局】そう思っている。ただし、SNSが得意、不得意なかがおられると思うので、意向をお聞きした上で実施したい。SNSが不得意なかたは若い世代とつながらざるを得ないと思うが、逆にそれを効果にしたい。

【委員】アカウント、アーカイブ、リンクなどの用語が出てくるが、不得意なかがおられるかもしれないので、わかりやすく説明願いたい。

【事務局】極力、日本語で表現してわかりやすく説明したい。

【委員】私も木地屋民俗資料館のホームページを立ち上げ、業者の協力を得ながら編集、更新しているが、市内の文化財所有者で情報発信している人は少ないと思う。

【事務局】詳細な調査はしていないが、たしかに少ないと思う。だが、情報発信をしたいのご意見や、市外だけではなく市内のかたからも見てほしいというご意見はいただいている。

【委員】これからの時代、SNSやインターネットでの情報発信はスタンダードになるだろうと思っている。このセミナーに期待している。

【委員】文化財の情報を個別に発信されても、なかなか見る機会はないと思う。資料にあるように市のホームページ等にリンクしたり、最近、市からのお知らせもSNSで来るようになったが、それらを利用して市内に発信してもらえば見る機会が増えると思う。

【事務局】おっしゃられたように、市ホームページの文化財のリンクコーナーに掲載したり、さらには地区公

民館にリンクのリストを配布することも有効ではないかと考えている。

エ-ア) 能生歴史民俗資料館の利用方針について

【事務局】別紙資料により説明。

【委員】令和6年度からは常時開館ではなく教育学習での利用の場合に対応するということだが、具体的にどのような利用を考えているのか。

【事務局】土日に資料館の様子を見ていたが、サイクリストや夫婦が白山神社から資料館を見上げる姿が多く見られ、白山神社と一体的であると感じ、草刈などを行った。4月の白山神社大祭のときも資料館から観覧している人がいた。当面は中門造りという特色である資料館の外観見学や、学芸員による案内といった利用を考えている。また、気温 35 度位でも資料館の中は 18 度位で涼しかった。そういった部分もぜひ見ていただきたい。

【委員】以前、当審議会でも見学し、今後について話し合いをしたが、屋根の茅葺きは荒れ、民具は雑然とし、展示物は統一性がなくどうしたものかというところで終わったかと思う。

【事務局】説明が漏れたが、屋根は修理し茅葺から鋼板にした。資料館内の案内だけでは足りないため、小学生や公民館のかたに白山神社、資料館、伊東家など能生地域を 1 時間ほどで回れるコースを作り、案内したいと思っている。

【委員】先ほど、民具を最小限に整理するとの説明があった。様々なもの、時代の違うものが陳列されていた印象がある。取捨選択するのか。それとも、あまり手をつけずに整理するということか。

【事務局】見ていただきたいものを置き、配置するものを少なくしたい。

【委員】厳選し、当時の生活が見えるような整理をしてもらえばよいと思う。ヒメハルゼミの研究や生態の展示物はどうするのか。

【事務局】資料館で能生地域全体を知ることができるような展示も必要かと思う。定期的に展示したり、ヒメハルゼミの解説板を掲げるなどしたい。

【委員】資料館の展示物を学校に周知すれば、学校の教育学習のコースにしてもらえるかと思う。ぜひ学校への PR を行ってほしい。

【事務局】校長会を通じて早速行いたい。

【委員】白山神社はヒメハルゼミだけではなく社叢という林も天然記念物になっているが、それに関する表示がないので、ぜひこの機会に行ってほしい。また、そこで子どもたちに何を学ばせるかを明確にしてほしい。活用推進にはそれが必要だと思う。

【事務局】今年、試行したいことは先ほどの 1 時間、2 時間コースで、地域にこれだけの文化財があるということを知っていただくところから始めてみたいと思う。今のご意見を踏まえて整理したい。

エ-イ) 松本街道の追加指定について

【事務局】別紙資料により説明。

【委員】関所跡の建造物や石仏は文化財として指定されているのか。

【事務局】石仏と日向茶屋の跡等も遺跡として残っているが、そちらも含めて全て指定されている。

3 協議

(1) 文化財の減(解除)について

【事務局】別紙資料により説明。

【委員】所有者はすべての像を持って転出したのか。

【事務局】像は家宝のようなもので、すべて持って転出されている。

(2) 糸魚川市文化財保存活用地域計画の評価について

【事務局】別紙資料により説明。

【委員】計画書に記載の推進協議会を立ち上げずに、文化財保護審議会に1名のメンバーを加えた体制で評価を行いたいということか。

【委員】自分は地域計画の策定委員として関わったが、推進協議会の委員は多くの分野のかたを招集するため、相当の労力を要するという認識である。地域計画の策定中も、果たしてそのような組織が編成できるのか議論を重ねたと思う。

【事務局】今回提案の体制で評価していただきたいと考えている。文化財保護審議会の規則に、地域計画の進捗等の評価を行う機能を追加したい。

【委員】市が自己評価したものを、文化財保護審議会委員が評価するのか。

【事務局】そのような形となる。評価を行う会議の中で意見をとりまとめ、意見書を出していただく。

【委員】現地視察も行うのか。

【事務局】事前に正副会長と打ち合わせをしたうえで実施を判断したい。

【委員】今後、評価手順を明確にして示してほしい。

【事務局】後日お示しさせていただきます。

4 その他

事務局から次の2点を報告した。

- ・えちごトキめき鉄道の市振駅駅舎、市振駅ランプ小屋、親不知駅舎の3つの施設が登録有形文化財の指定を受け、登録有形文化財プレートが届いている。今後、プレートの贈呈式という形でセレモニーを実施する予定。
- ・4月13日(土)、木地屋の里付近で地滑りが発生し、土砂が流出した。流出土砂の先端は、木地屋の里の手前約50mの県道まで達したが、木地屋の里に被害はなかった。発災翌日の14日、小掠委員と文化振興課で現地確認を行った。今後、県が応急対策として大型土のう、監視カメラ等を設置する予定。木地屋の里は予定どおり、5月3日から開館している。
- ・委員から、コロナの関係で中断していた視察研修の再開について要望があった。事務局から、実施について検討すると回答した。

閉会(15:10)